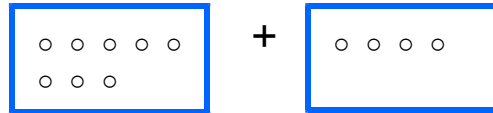


たしざんの習熟のために（たしざん名人になろう）

カードの活用による計算の習熟

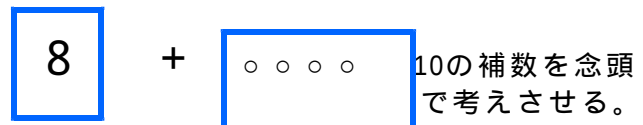
- 10のまとまりを作ることが難しい児童

第1のステップ・・・2枚のドットカードで10の補数を作って計算する。



「2個動かせば、10と2になるね。」

第2のステップ・・・1枚を数字カードに変えて数字カードとドットカードで計算をする

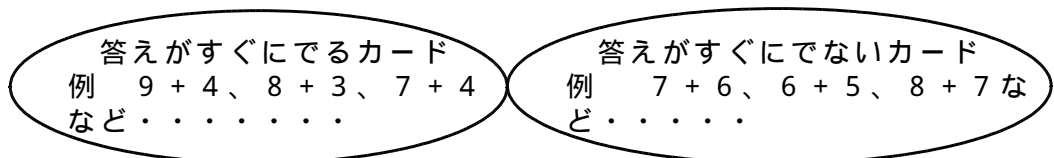


第3のステップ・・・2枚の数字カードで計算する。



- 10のまとまりを作ることができるが、答えが出るのに時間がかかる児童

第1のステップ・・・たしざんカードを答えがすぐにでるカードとでないカードに分類させる。



子どもによってカードは
異なります。

第2のステップ・・・苦手なたしざんの計算方法をもう一度確かめて、繰り返し練習する。

・ 計算に習熟してきた児童

第1のステップ・・・答えが同じになるたしざんカード集めをする。

$$\begin{array}{ccccccc} 9 + 4 & 8 + 5 & 7 + 6 & & & & \\ 2 + 9 & 3 + 8 & 4 + 7 & 5 + 6 & 9 + 2 & \text{など} & \end{array}$$

第2のステップ・・・第1のステップの後、被加数の大きいものから順に並び替えをさせる。被加数が1減ると、加数が1増えることなど、多様なたし算に気づかせたい。

$$9 + 2 \quad 8 + 3 \quad 7 + 4 \quad 6 + 5 \cdots \cdots \quad \text{など}$$

問題づくりにより、式で表す力・式を読む力の習熟

・ 身の回りの生活場面と式を関連づけ、式から問題をつくることが難しい児童

教科書の文章題を見直し、式の被加数を何にするか（自動車、花、鉛筆など）決めさせることにより、何のお話にするか決定させる。次に、式に出てくる被加数と加数の大きさを確認する。さらに、たし算の意味を想起させ、「あわせて」「みんなで」などのキーワードを使うとよいことを確認し、問題づくりを支援する。

$$8 + 5$$

↓

↓

「何の数にしようかな。青い花と赤い花にしようかな。」

「たしざんだから、あわせる問題にしよう」

・ 式から問題をつくることのできた児童

自分で式を考え、それに合った問題を自分でつくり、カードに書き込ませた。表は問題（絵と文章）をかき、裏は式と答えを書くようなカードにして、友達同士で問題を解き合うことができるようにした。互いに感想を伝え合う姿も見られ、楽しみながら意欲的に問題を解いていた。

（問題作りの学習プリント）



「どの問題を解こうかな。」



「ここは、こう書いた方がいいよ。」
「あっ、そうか。」

